



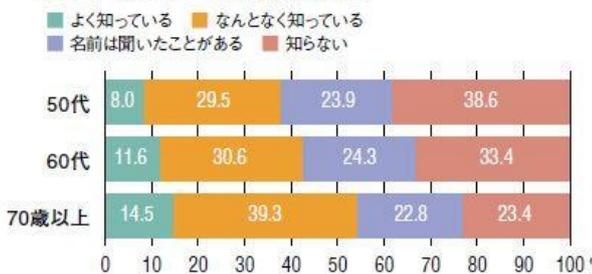
相続手続あれこれ

⑦ - 1

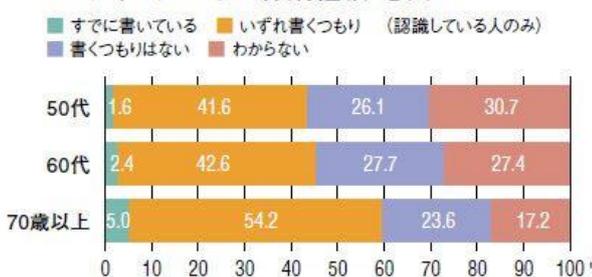
子供が助かるエンディングノート

終活関連の本として、さまざまなエンディングノートがでています。経済産業省の調べによりますと、エンディングノートとは何かということを知っている人は、6割を超えています。実際に書いた人は60代で2.4%、70代で5%のみです。

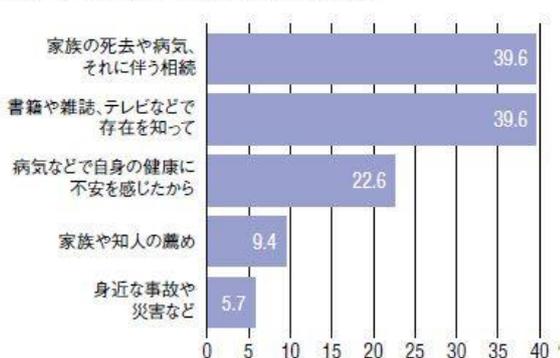
エンディングノートの認知度は



エンディングノートの作成経験・意向は



エンディングノート作成のきっかけ



経済産業省「安心と信頼のある「ライフエンディング・ステージ」の創出に向けた普及啓発に関する研究会報告書」(2012年)より

エンディングノートを書く きっかけは家族や親族の相続

とりあえず書いてみようと思っても、自分年表、趣味、特技、苦手なものなど書く欄もあって面倒くさくなってしまふ。

作成した人のきっかけを見ると、やはり家族が亡くなったり、相続手続を経験して初めて本気で書く気になるようです。

せつかく書くなら残された 家族が困らない様に

余計な出費を抑えて、節税もできるという視点でみた場合、どんなノートがベストか、必ず書いておくべきことは何か考えてみましょう。できれば法的効果がある遺言書を書いて置くほうが良いですが、ハードルが高いのでまずエンディングノートで心の整理を試みるのが良いでしょう。

まず書かなければならないのは負債

遺族にとって最も迷惑なのが、家族の知らない負債。借金は恥ずかしいと思うので家族には内緒にしている人は多い。もしものことがあった場合、相続放棄ができるのは3ヶ月まで。莫大な借金を遺族が苦労して返済するケースも少なくありません。負債は必ず書いておきましょう。

(続く)